

## 会員交流委員会だより

# 金沢・福井・滋賀地区建物視察会に参加して

建築家  
株式会社日本設計 PM・CM 部 シニアマネージャー  
日本建築美術工芸協会法人会員  
**山下博満**



今回も、aacaの視察会ならではの貴重な体験ができました。

11月15日金曜日、前泊明けの朝は雨も上がり、富山市庁舎の元気な様子を確認して、金沢駅の集合場所へ。

### ①金沢建築館

谷口吉生さんの最新作。2階には谷口吉郎の和室を再現し、地下の展示室では開館記念特別展が開催中でした。館の方から「谷口吉郎は、この地に住んで古い建築を活かしたまちづくりを提案し実践した。」「谷口吉生は、この地に父の設計による内部空間と融合した新たな建築館を構想し実現した。」ことを聞き感銘を受けました。展示の中で、私の家の傍に建っていた煙突のある白い建築が、学生交流のための風呂場（谷口吉郎）であったことを初めて知りました。2階のロビーでは、山種美術館やホテルオークラで見慣れた行灯に再会することもできました。

### ②NICCA イノベーションセンター

昨年JIAの表彰式に（霞が関ビルで）出席した際にお話を伺った日華化学の方や設計者小堀哲夫さんのプレゼンテーションがオープンなホールで行われ、日華さんの「働き方の意識改革」に始まったプロジェクトが、KDKHモデルを元にした小堀さんの「四輪駆動」で加速され、さらにこの場で新たな「0から1を創出する」活動が生まれていることを知り、意識から会社を変えようという意欲に多くを学びました。

近年、屋外で仕事をするのが気に入っています。空の変化、風の変わり目、鳥や虫の声、…、そういう中にいて仕事もはかどります。NICCAにも、前回視察会のROKIのような不均質性、曖昧さ、揺らぎが溢れていて、皆さん仕事がはかどるに違いありません。

宿泊先近くの「敦賀市交流施設オルパーク」（千葉学）は、交流会後の夜も次の朝も人々に使いこなされていました。



金沢建築館の行灯



NICCA の四輪駆動

### ③福井年縞博物館

小高い丘からブルータルなシャフトが空へ立ち上がる縄文博物館（横内敏人）の向かいに、互いの良さを競い合うような横に伸びる端正な切妻屋根がふと浮いています。内藤廣さんによるこの佇まいと執拗な縞々デザインの理由が、館の方からの年縞の説明で腑に落ちました。

運営者も建築家も「水月湖年縞」の本質を如何に伝えるか、に心を砕かれています。世界にここしかない地形地質の奇跡的な好条件、7万年前からの気候変動や地球環境の詳細な履歴、10cmに満たない径の棒から地球全体の歴史を読み解くドラマ…年縞そのものの存在感に圧倒されました。

### ④佐川美術館・樂吉左衛門館

ここを訪れるのは4回目、茶室は2回目でしたが、樂吉左衛門館を樂さんとともに設計された内海慎介さんのお人柄に触れ、ますます好きになりました。

今回内海さんがこだわられたのは、11時半に観始めること。40名を載せたバスはピッタリに到着し、4班に分かれて茶室を見学。待ち時間のうち、「白隱と仙厓展」以外はずっと、樂吉左衛門館のホールに居ました。11時半過ぎから射しこみはじめた光は、息を凝らして見つめる正面の壁を、水の揺らぎを映しながら滑り落ち、時とともに角度を変えていきます。集合時刻直前、光がスッと消えて深い静寂に包まれました。

アプローチにも贊と工夫を尽くした茶室ではゆっくりしたかったというのが正直なところですが、次は家族で訪れます。

### ⑤ラ・コリーナ近江八幡

「ふくみ天平」は大好物です。雑誌で見ていた草屋根は分厚く育ち季節の色を纏っていました。藤森照信さんと協働された中谷弘志さんにご案内いただき、刈入れ後の田んぼを歩いたり、秋祭りの松明づくりを眺めたり、他設計者の配置案を見たり、クリの柱を撫でたりして、ここの世界観をだいぶ理解できた気がします。カフェで楽しんだ「焼きたて八幡カステラ」と粒餡のマリアージュは忘れられません。

全体を通して晴天続きで、すばらしい視察会でした。



福井年縞の展示



樂吉左衛門館のホール